

# ここからみんなではじめよう

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた新地町。同町の鹿狼アルプホルン倶楽部が、震災がれきを活用した「アルプホルン」を作成し、演奏を行っています。

鹿狼アルプホルン倶楽部 (新地町) ☎0244(62)3771



◀同倶楽部は、仁科さん(後列左から3番目)が、「元旦に鹿狼山山頂からアルプホルンを演奏したい」と2005年に発足。三雲さんは後列左端。

▶乗鞍高原アルプス音楽祭(長野県)に出演の様子。(2011年9月)



## 「ありがとう」の気持ちを、音色に込めて。

「震災を風化させないために形として残したいと思った」鹿狼アルプホルン倶楽部の仁科静夫前会長は、震災がれきを活用したアルプホルンの制作経緯をこう話してくれました。

鹿狼アルプホルン倶楽部がある新地町は、津波で大きな被害を受けました。メンバーの中には家が流された方もいました。しかし、かねてから交流があった他県のクラブから物資などの支援を受け、程なく活動を再開。県内外の鎮魂慰霊祭などで演奏を重ねていました。そんな折、同じく被災した岩手県大槌町の方から、がれきで制作したマウスピース\*をプレゼントされました。これをきっかけに「震災のがれきでアルプホルンを作る」ことを思いつき、町役場などの協力を得て、杉の流木を使った楽器作りをメンバーみんなで開始しました。

アルプホルンは、通常硬いヒノキなどを材料にするため、軟らかい杉の加工には、細心の注意を払わなければなりません。制作から約8か月経った昨年6月ようやく3台が完成。翌月の演奏会でデビューを果たしました。

三雲保現会長は、「震災がれきで作成したアルプホルンが完成した時は、感謝の気持ちでいっぱいになりました。イベントなどで演奏する前に、必ずこのアルプホルンを紹介しています。自分たちの活動を通して、震災の教訓を伝えられれば」と話します。現在は、年に十数回のペースで県内外の演奏会に参加。今後も積極的な活動を続けていく予定。支援に対する感謝を胸に、みんなの思いが込められたアルプホルンは、今後も素敵な音色を響かせ続けることでしょう。



▲みんなで協力して、砂や塩分を丁寧に取り除きました。

\*マウスピース…管楽器などの口にあてる部分



▲内側は全て手作業でくりぬきます。

パソコンが得意なライアンさん、まず費用の心配がほとんどいないインターネットで見せていこう、と考えました。でも「それだと見てもせいぜい5、6秒。写真集なら? 多分同じですね、パラパラっと見たら閉じてしまうでしょう。でもカレンダーなら一年中かけておいで、見てもらえます!」

日本語を交えながら丁寧話してくれるライアンさんからは「美しい福島を知ってもらいたい」という思いが、ひしひしと伝わってきました。

## 「福島という美しい木」に育つタネをまきたい

今なお世界が注視する事故処理が続く中、広がってしまったイメージを変えることは簡単ではありません。しかし、だからこそ「タネをまきたかったんだ」とライアンさん。「見てくれた人々の心に新しい福島の芽が出て、少しずつでもいいから木が育つてゆくように、美しい福島が世界に伝わってゆく、そんなタネをまきたいんです」。

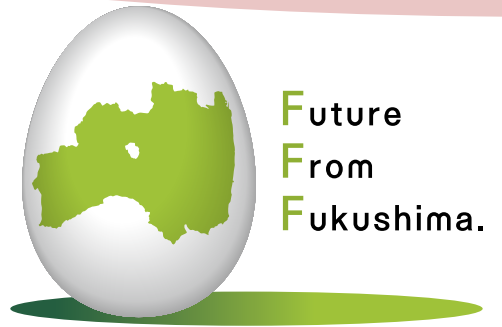
カレンダーは県外・海外の、思いつく限りの著名人・マスコミなどにも送呈しました。

2013年版にはカーター元アメリカ大統領から、2014年版にはイギリスのエリザベス女王、カナダのハーパー首相などから、活動を讃える礼状が届きました。

また「福島が頑張っていることを伝えたいのでカレンダーを送ってほしい」と世界中からたくさんのお要望があったそうです。今年さらには多くの2015年「This is Fukushima」を発行し、世界に届けられれば——と、これからも福島を発信していこうという意気込みを語ってくれました。



賛同の寄付や協力が増えて、月めくりになった2014年版を手をライアンさん(中央)。最初の2013年版(2ヵ月めくり)は、ポールさん(右・カナダ出身)とヘナレ・ア克蘭ギさん(左・ニュージーランド出身)と3人で費用を出し合って作りました。



# ふくしまからはじめよう。

「This is Fukushima (これが福島です)」というカレンダーがあります。作ったのは郡山市の中学校などで教えている外国人英語講師たち。友人や知人、世界中の人たちに本当の福島の姿を伝えたいとの思いが、作成のきっかけとなりました。



住んで見て知っている  
生きている福島を世界に！

震災後、福島に住み続けるライアン・マクドナルドさんのもとに、母国の家族や友人・知人から心配する声が次々に届きました。それは一様に「なぜ Fukushima にいるんだ」「原発事故でもう人は住めないんじゃないのか?」といった内容だったそうです。福島が「月世界のように荒涼としたところだと思われる」とライアンさんは感じています。「でも、それはニュー

スの情報しか知らないからなんです。福島の美しさや、頑張っている福島の人々の姿が見えていないから。だったら、私たちがそれを見せよう、そしてイメージを共有してもらおうと思えました。友人のポール・スプリッグさんが撮影していた県内の風景写真を見せてもらったことも、大きなきっかけとなったそうです。



# 「This is Fukushima」カレンダー！ フクシマのイメージを発信する 郡山市教育委員会外国人英語講師 ● ライアン・マクドナルドさん (郡山市立明健中学校勤務)

(右) ライアン・マクドナルドさん (明健中学校の外国語教室の様子)。語学指導等外国人青年招致事業 (JETプログラム) により 2002 年に来日し、外国語指導助手 (ALT) として福島東高校 (福島市) に赴任。2005 年に郡山市教育委員会の英語講師となりました。1971 年アメリカ合衆国ジョージア州出身です。



(上) カレンダーに使用した写真は「福島で撮った写真を提供して!」と外国人講師仲間に募り、2014 年版では「福島の人々」をメインテーマに選択しました。



(右) エリザベス女王とカナダのハーパー首相から届いた公式の礼状。